
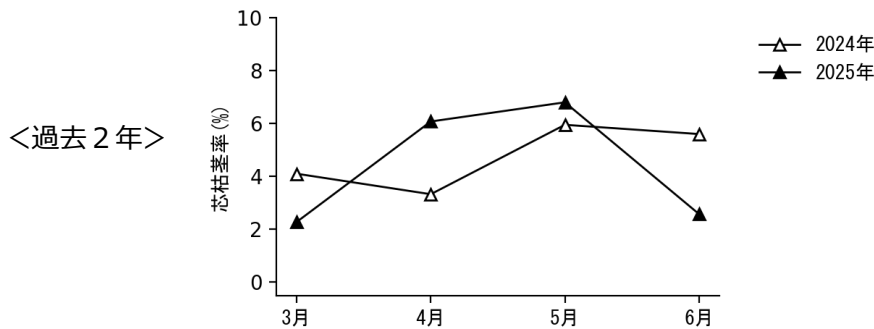
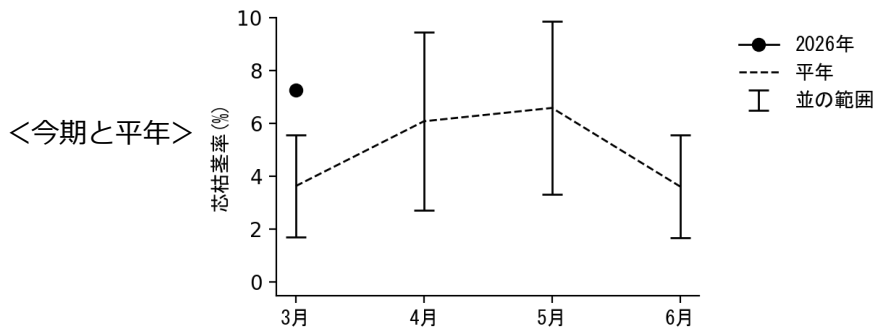


作物	さとうきび	地域	宮古群島	
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)			やや多
予報	3 月からの増減傾向			↗
	4 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移 (株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ (87%)、イネヨトウ(13%)
- ・発生ほ場率100% (平年：91.0%)

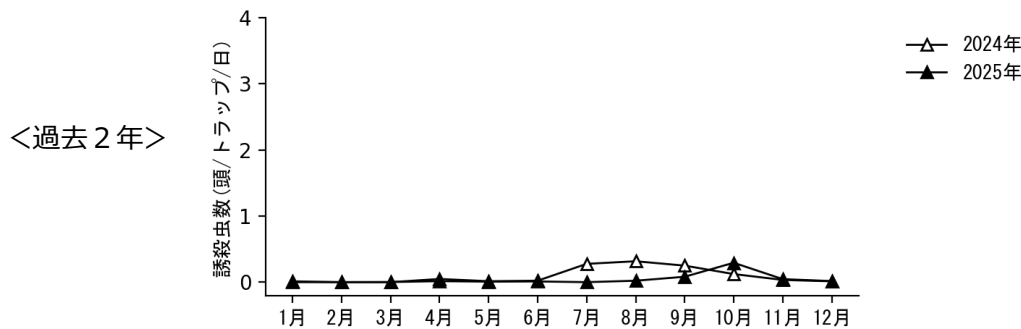
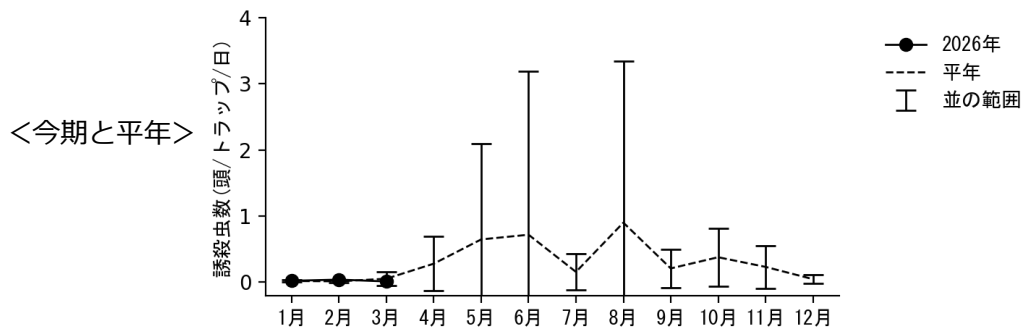
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率100% (平年：26.2%)

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

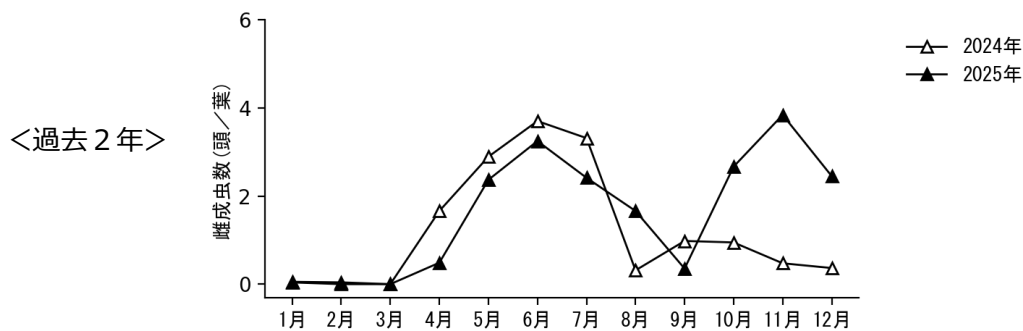
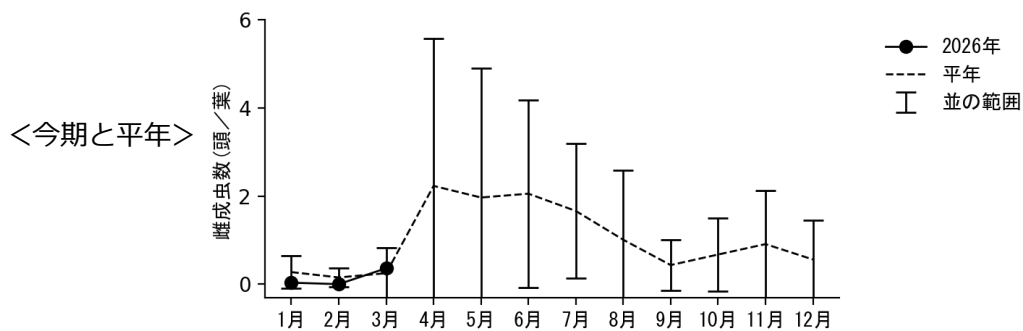


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
		4 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：20.0%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

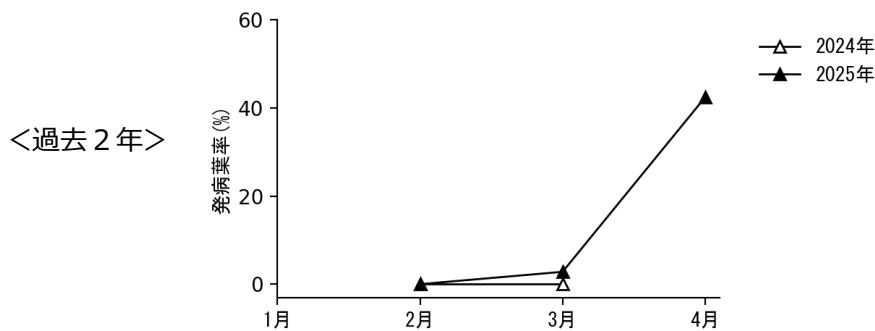
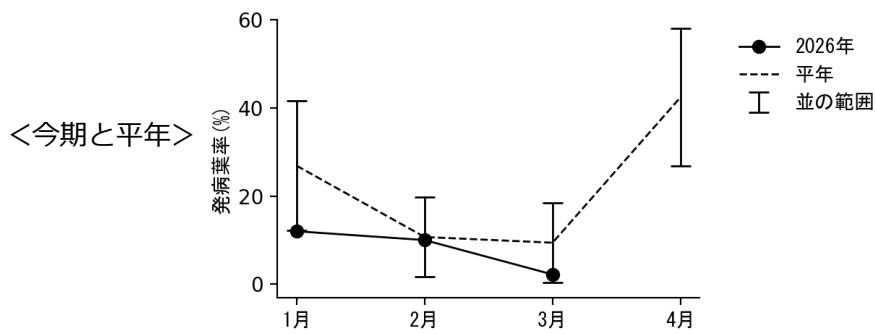


マンゴーツメハダニ

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 54.0%)

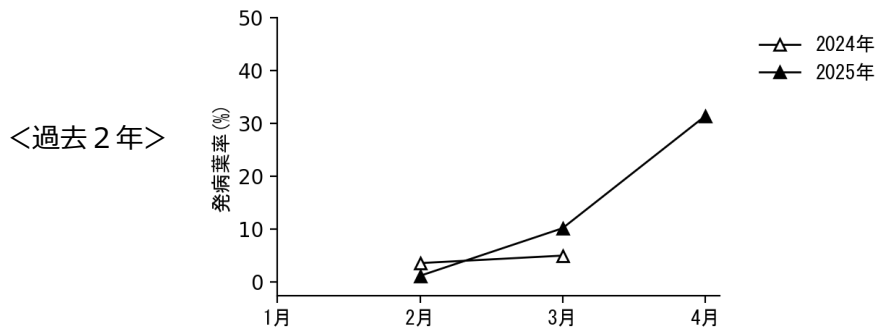
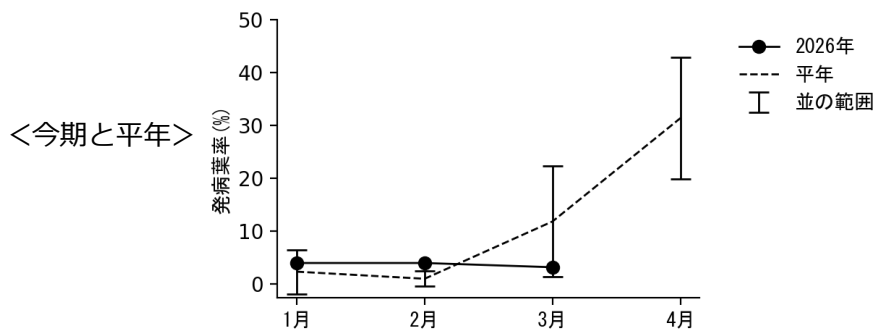
防除のポイント

- ・乾燥時、多肥の時に発生が多く、着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合がある。多発すると防除が難しくなるので発病初期からの防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点・褐斑細菌病		
調査結果	3 月の発生量（平年比）	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率60.0%（平年：54.0%）

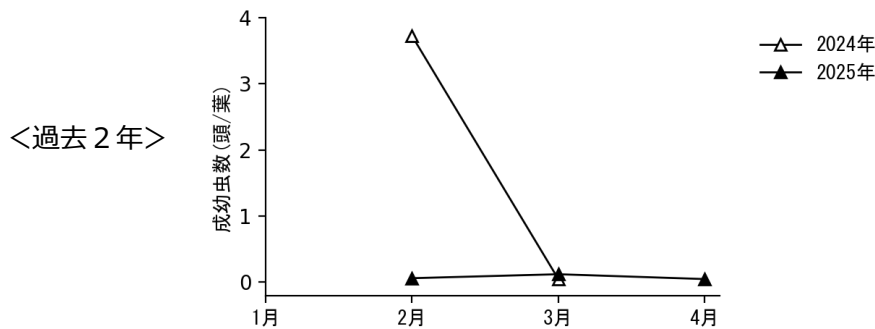
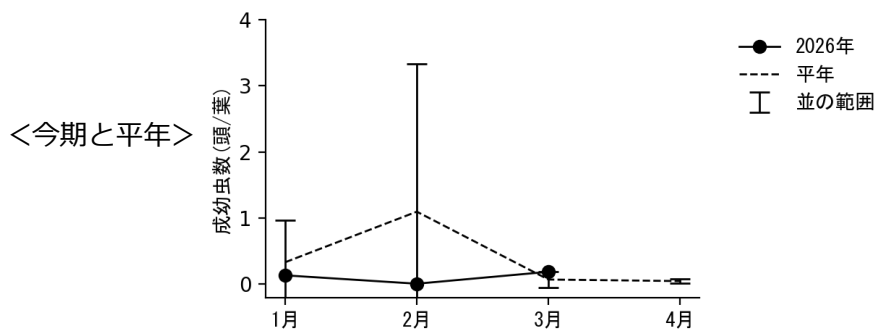
防除のポイント

- ・強風による葉ずれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴー・防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風が続くと急激に広がる場合があるので、その前後に薬剤散布を行う。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	3 月からの増減傾向	→	
	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率80.0% (平年 : 34.0%) ※一部ほ場で多発

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場周辺の雑草除去に努める。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

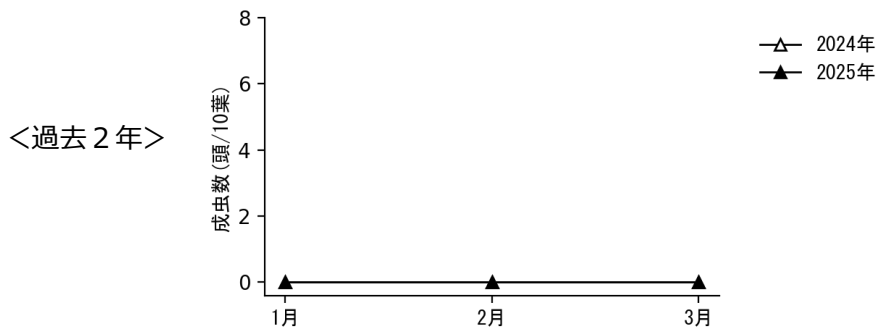
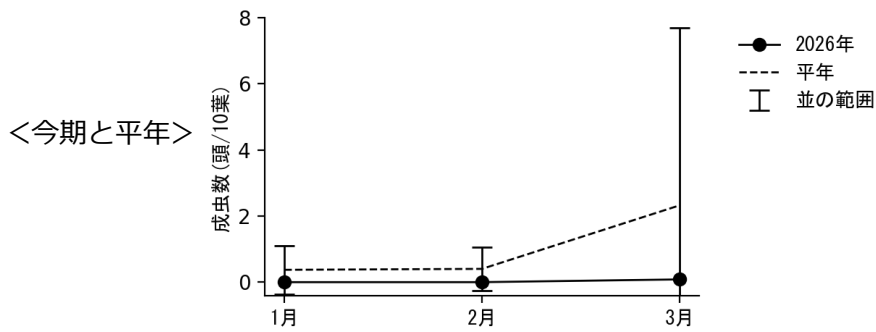


無翅虫

作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率25.0% (平年 : 15.2%)

防除のポイント

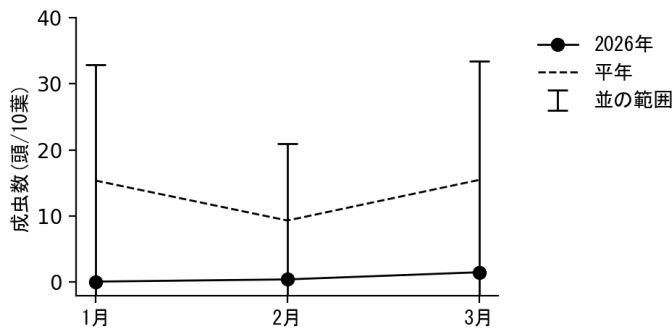
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

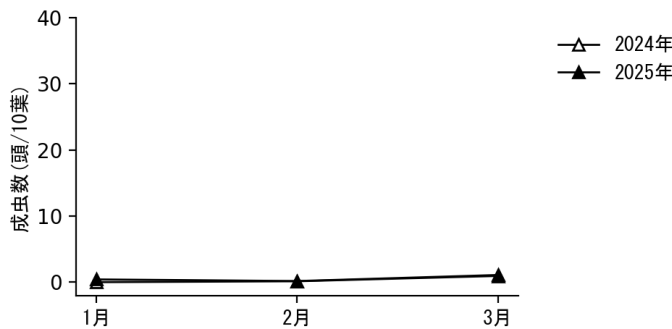
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>




・発生施設率75.0% (平年：48.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は目隠の細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

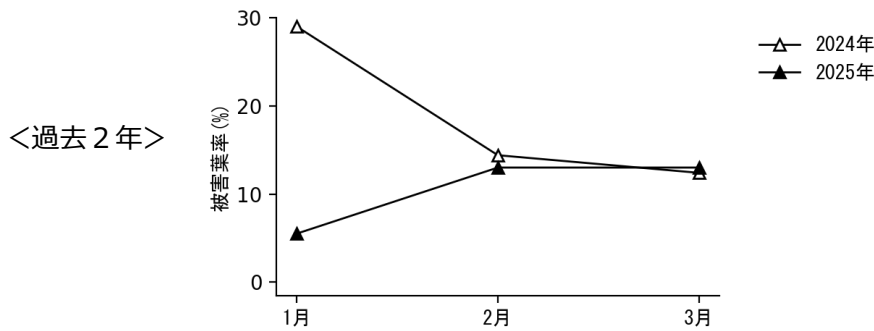
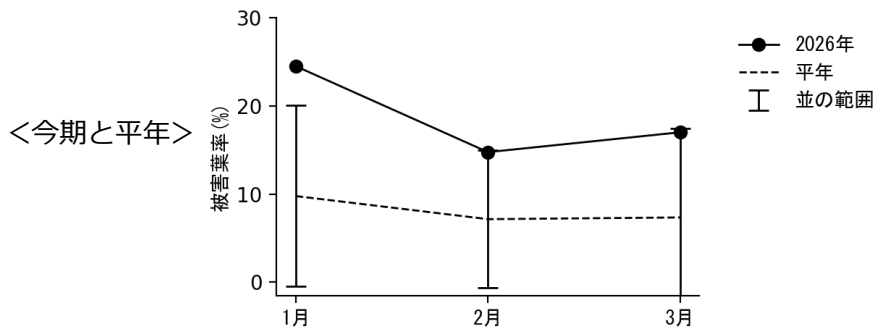


幼虫

作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

被害葉率の推移




・発生施設率75.0% (平年：36.4%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。



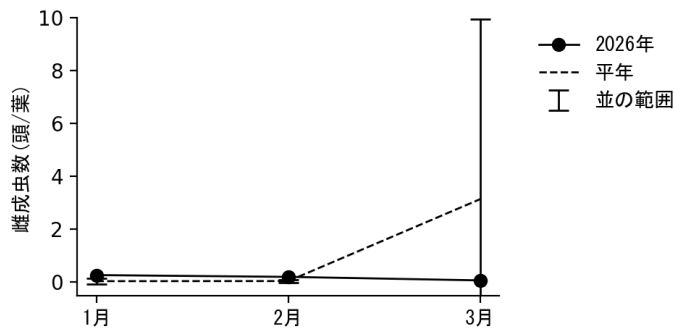
被害葉

作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ハダニ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

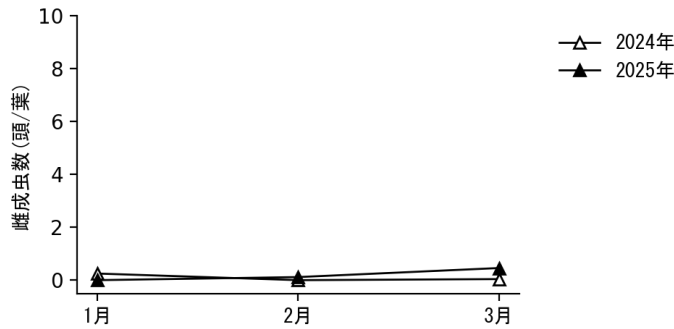
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



・発生施設率25.0% (平年 : 32.1%)

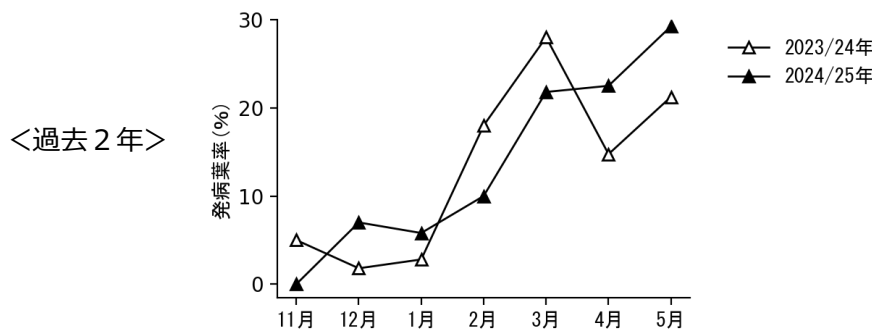
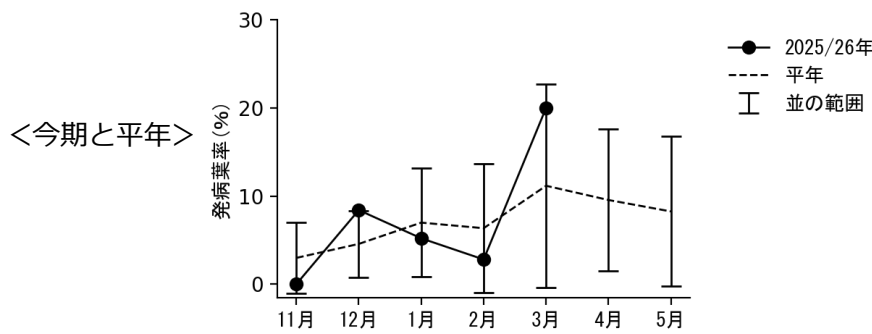
防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	3 月からの増減傾向	↓	
	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率100% (平年 : 48.0%)

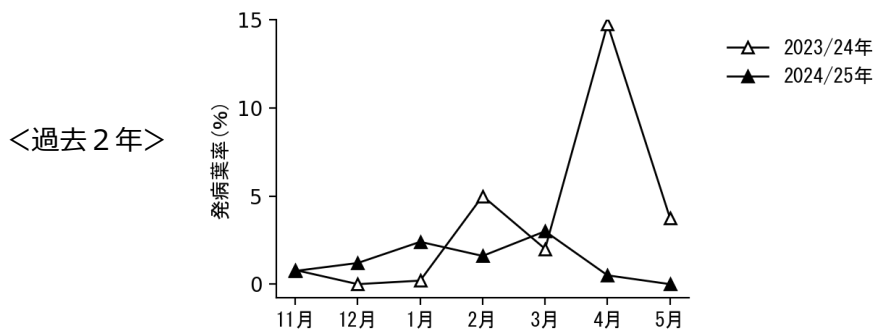
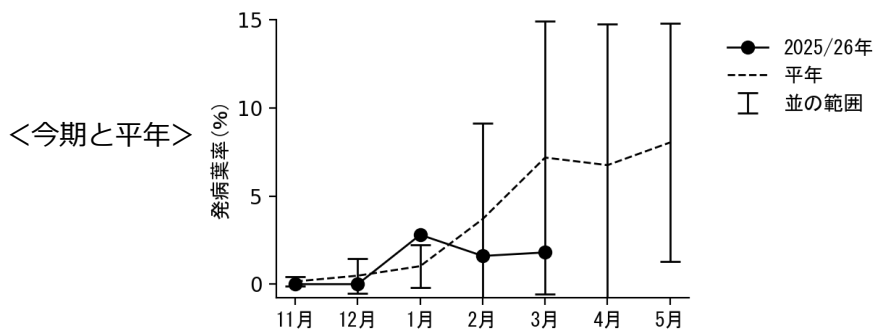
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島	
病害虫名	② 斑点病				
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並			
予報	3 月からの増減傾向	→			
	4 月の発生量 (平年比)	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)			

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 52.0%)

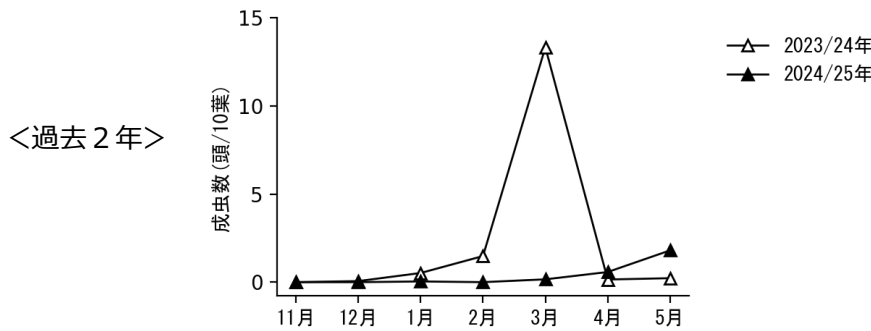
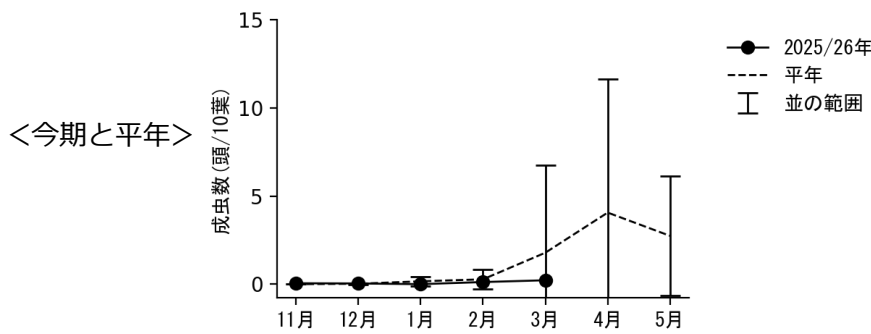
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	 <p>成虫</p>
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率20.0% (平年：26.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

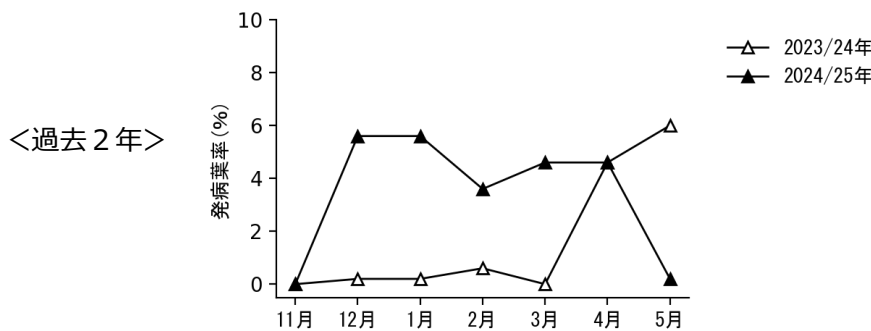
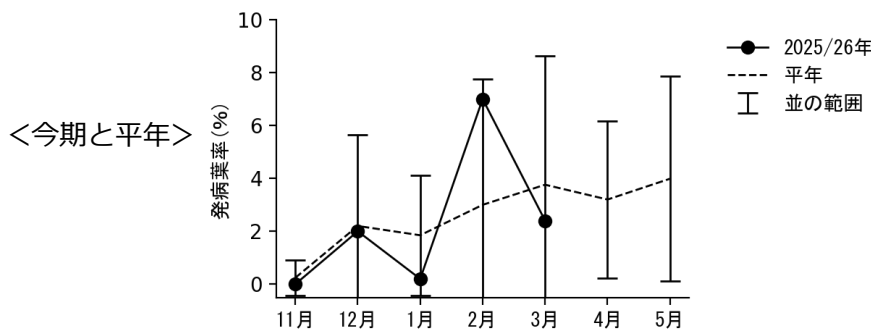


幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	3 月からの増減傾向	↘	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年：40.0%)

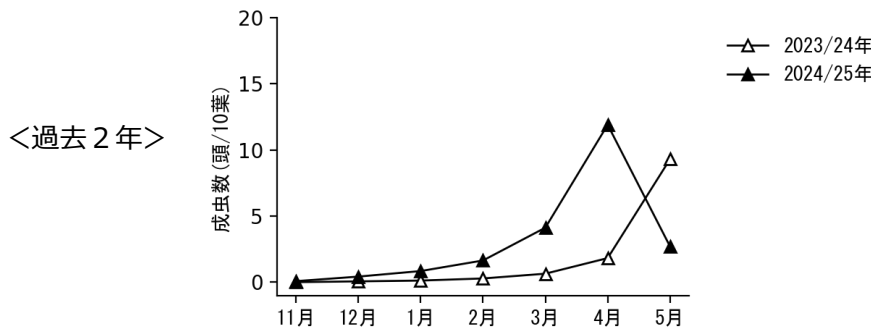
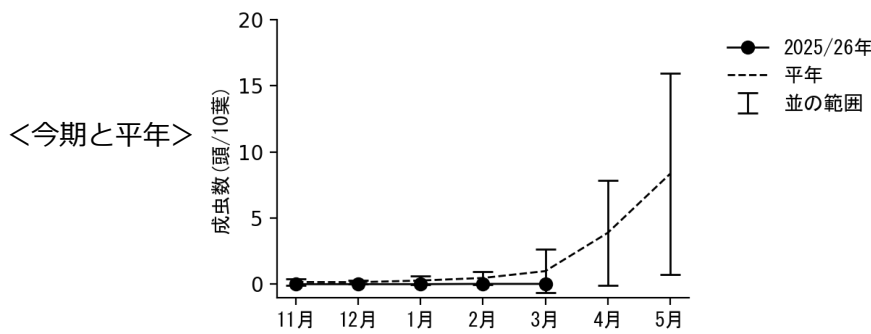
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年：48.0%)

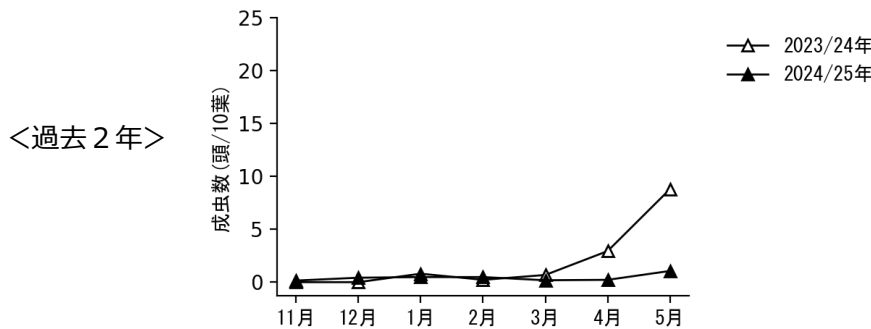
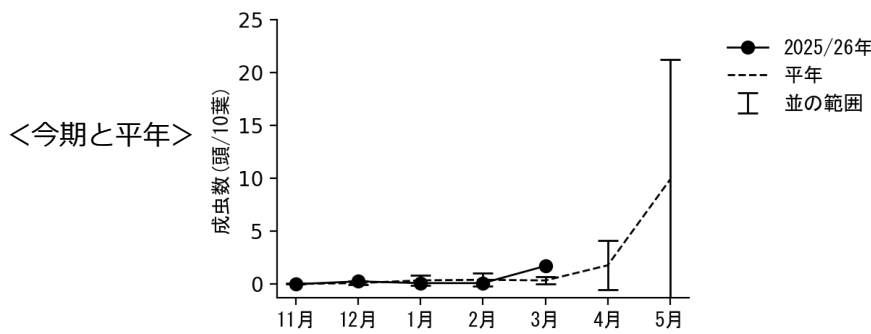
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率40.0% (平年：44.0%) ※一部施設で多発

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

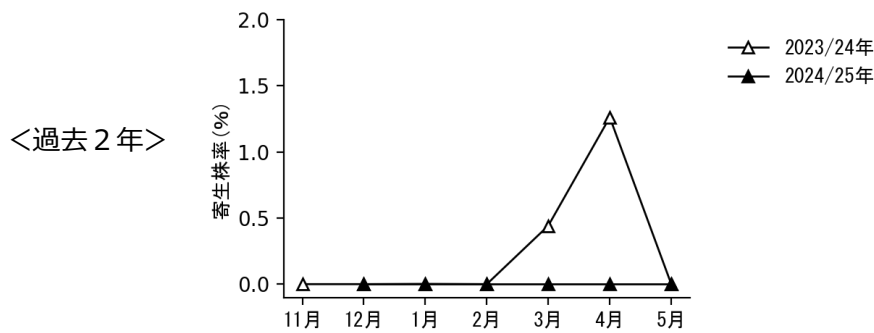
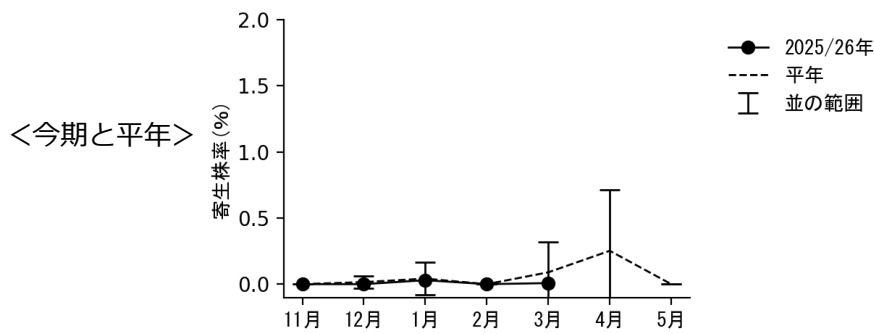


幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	④ ハダニ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生株率の推移



・発生施設率20.0% (平年：8.0%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。